

牧草や青刈作物も 上手に組合せて

・西南暖地米作地帯

二二〇アールで七ヶタ農業

九州も南、宮崎県小林市は、霊峰霧島の麓にある都市で年間の平均気温は一八度もありますが、冬は二―三回の雪を見るという暖地としては寒いところ、ここで松迫さんは、水田一三ア、畑八〇ア、計僅か二二〇アで、乳牛八頭（搾乳牛五、育成牛三）を飼って、乳牛からは、年間粗収入として乳代七七六、〇〇〇円、仔牛代一七七、〇〇〇円、計九四三、〇〇〇円をあげ、このほかの収入は水稲のみで、田圃の四〇アは田畑輪換を行ない、残りの田九〇アに水稲を伴付し、米代三八九、〇〇〇円、総計一、三三二、〇〇〇円の七ヶタの収入をあげることが出来ました。過去の長い間、水田単作にあえいで来た土地の人々が夢にも見なかった酪農重点の経営が、松迫さんの工夫によって七ヶタ農業の成果を、ここに生んだのです。

このような経営が出来上ったのは、松迫さんのやり方に何か工夫があったのに違いありません。それはおそらく次のことが、その答と考えられます。

1 年間を通じ連続的に自給飼料を生産し、給与しようという工夫

2 水田からも田畑輪換、裏作利用により飼料作物を生産

する工夫

3 牧草を高度に利用しようという工夫

4 省力化のための工夫

耕地の利用状況は別表の通りで、多頭飼育を進めるために飼料自給には特別の工夫と研究を重ね、年間一五万キ、一頭当たり二万キの生草を確保、而も年中連続的に給与出来るように工夫したのです。そのために乾草やサイレージによる貯蔵、作物の選定に心を配り、次の様な給与計画を推し進めました。

一―二月 イタリアンライグラス（生、乾）、かぶ、甘藷
（貯蔵中）

三―四月 イタリアンライグラス（生、乾）、れんげ、ラ
デノクロバ、青刈えんばく、甘藷

六―七月 ラデノクロバ、オーチャードグラス、パ
ルミレット、畦畔草

八―九月 青刈デントコーン、テオシント、甘藷つる
十一月十二月 イモヌカサイレージ、イタリアンライグ
ラス

毎月の生産量は一二、〇〇〇―一四、〇〇〇キで、何れも適期刈取りを行ない、青刈給与で余る時はサイレージとして貯蔵をしています。

一六種類の飼料作物

労力の調節、水田地力の培養、飼料面積の確保といったねらいから、思い切って水田四〇アを畑に還元し、トウモロコシ、カウピー、テオシントなどの多収作物を伴付し、畑は四〇アの牧草を中心に、早春、盛夏、秋用と夫々レブ、青刈えんばく、パルミレット、かぶなどの飼料作物を配置し、特産である甘藷も根、つる共々飼料化するなど徹底した増産体制をとっています。このことから購入飼料代は乳代の二割に止まり、安定した収支といえます。

牛は本来、草で育った家畜です。だから酪農は先ず草づくりから始まる。草から乳をしぼろう。これが松迫さんの信念のようです。このために、裏山の急傾斜地も更に草地化が進められています。現在はイタリアンライグラス、れんげをその特性から水田裏作牧草として伴付し、輪換畑の肥沃地には連続利用出来るラデノクロバを入れて能率的な生産をあげ、畑には永年性で耐暑性のつよいルーサンを導入して将来にそなえているのも注目すべきでしょう。

この考えとこの実行力があってからこそ、年間平均一頭当たり二九石の牛乳生産をあげ、然も繁殖障害無という好成绩を納め得たと思われれます。同じ牛を飼っていても、赤字に悩み、労力に苦勞し、空胎に困る人が多い中に誠に立派な成果ではないでしょうか。

作物名	面積		10アール当り キロ	総収量 キロ	
	水田	畑			
水菜	90	3	540	4,860	裏作 輪換畑
稲	100		6,000	60,000	
イタリ	10		15,800	15,800	
ラデ	20		2,500	5,000	
テ	15		5,200	7,800	
オウ	15		8,000	12,000	
カ	18		2,000	3,600	
ク	10		6,500	6,500	
レ	10		4,000	4,000	
ケ	20		1,300	2,600	
ン	26		2,000	5,600	
タ	20		1,200	3,120	
キ	20		4,500	9,000	
ヤ	20		6,000	12,000	
ド	7		4,000	2,800	

水田裏作の飼料づくり

寒冷地の場合

寒冷地の水田裏作として、最も安全で多収なものは、ライ麦とレーブです。ともに一〇〇日以上雪が積る地帯でも良く越冬し、充分収穫できます。また東北南部のれんげの裏作できる地帯では、このほかにイタリアンライグラス、ベッチ、かぶ、ルタバガ、えんばくが利用されます。イタリアンの越冬しない地方ではワイルドブロームグラスを御利用下さい。

暖地の場合

暖地では稲の早期、晩期作が普及し、飼料作物もその後自由に作れるようになり、酪農経営に欠かせない飼料作りです。その主なものを取上げてみましょう。

一 早期田の跡

○早刈利用

早期稲の刈取後、八月中下旬頃に直ちに飼料作物を播種、十〜十一月までに刈取利用する方法で、この時期はまだ暑く、台風心配もあるので、生育の早いもの、風に強いものが良いでしょう。とうもろこしとカウピーの混ぜまき、また紫かぶ、レーブも生育早く、年内に収穫いたします。

○連続利用

八月中下旬まで、十〜三月の全期間を利用できるので、飼料作物が自由に栽培でき、連続して多収穫されます。イタリアンライグラス、ベッチ、えんばくの三種類混播で、年内一〜二回、翌春二〜三回刈取れ、冬期の青刈として貴重なものです。またかぶも冬期の多汁質飼料として作付しておきたい根菜です。ラデノクロバーや赤クロバーも次の稲作が晩期であれば、更に三月中旬から一カ月毎に三回、四回刈取れ、かなりの収量があります。

二 普通田の跡

す。レーブを作付すれば年内に一番刈もできます。

十〜十一月まで、翌春の五月以降、水稲作付前まで利用できます。播種期が遅いので、寒さに強いものが要求されます。えんばく、れんげ、ベッチ、イタリアンライグラスが良く利用されています。水稲の中播きも良く、またレーブの移植も好適です。

水田裏作飼料増産のコツ

○播種はなるべく早く、稲刈取後の耕起栽培が最適です。稲の刈取りが遅れる時は立毛、中播きによる早期播種が大切です。

○湿りのある土地が適しますが、排水不良は増収の敵です。二〜三畝おきに排水溝を作りましょう。

○中播きの場合には落水後二〜三日で播種、稲刈取後直ちに追肥し、株張りを良くしましょう。

○イタリアンライグラスとベッチ、えんばくなどの混播が良く、寒冷地ではえんばくやライ麦にベッチ、えんばくの混播が増収となります。

○播幅は広い方が多収です。

○多肥は増産のもとです。窒素過多をさけ、磷酸と加里分を充分に与えて下さい。

○寒冷地では雪腐病菌核病による冬枯れが起きるので、降雪直前に消石灰二〇〜三〇キまたは水銀粉剤三キ程度散布して下さい。

○雪が少なく、寒さのきびしい地帯では堆肥をきせて防寒する。

○春の追肥は、起牛期に行ないできれば液肥が効果的です。

寒冷地や乾燥地

利用してほしい裏作用優良牧草

ワイルドブロームグラス

寒冷地や乾燥地の裏作用牧草で根雪期間一〇〇、日零下一〇度以下の所でも良く冬を越します。翌春の生育も早く、分けつ旺盛で、ライ麦以上の収量があります。イタリアンのよく生育しない乾燥地にもよい。



ルーサン(アルファ)をもっと利用しよう

ルーサン(アルファ)がまめ科牧草の中で最も生産力が高く、栄養価に富むことは良く知られていますが、やせ地では出来ない、酸性地には適しないということからとかく敬遠されるきらいがあります。しかし米国やヨーロッパでは赤クロバーやラデノクロバーよりも広く利用されており、再生力の早いこと、多年生であること、早魘や暑さにつよいことなどの能力をもっと活用してほしいものです。良い土地に、肥料と石灰を施し、根瘤菌を接種して、誰よりも先にルーサンを利用しましょう。

ルーサンの品種

グ	リ	ム	耐寒性極めて強い。萎凋細菌病に弱いので短年利用がよい。
デ	ユ	ビ	再生早く極めて多収、耐寒性もつよく、萎凋細菌病に弱い斑点病にはつよい。適地は広い。
ア	ト	ラン	多収、適地の範囲広いが、病気に弱いため、短年利用に適する。
ナ	ラ	ガン	極めて多収で耐寒性もつよいが、病気に弱い。
バ	ッ	フ	適地の範囲広く、萎凋細菌病につよい。
ウ	イ	リ	生育早く、暑熱に耐え、生産年限が長い。適地の範囲も広く多収。
リ	ゾ	ー	ルーサン中唯一の匍匐型の品種で、適地の範囲広く、多年利用によい。